



障害の収集と抑制

- [グローバル障害ポリシー \(1 ページ\)](#)
- [フォールト抑制 \(3 ページ\)](#)

グローバル障害ポリシー

グローバル障害ポリシーは、障害がクリアされた日時、フラッピング間隔（障害発生とクリア状態の間の時間）、および保持間隔（システムで障害が発生していた時間）など、Cisco UCS ドメイン内の障害のライフサイクルを制御します。

Cisco UCS の障害には次のライフサイクルがあります。

1. ある状況がシステムで発生し、Cisco UCS Manager で障害が発生します。これはアクティブな状態です。
2. 障害が軽減されると、フラッピングまたはフラッピングを防ぐことを目的としたソーキング間隔になります。障害が発生し、すぐに何度かクリアされると、フラッピングが発生します。フラッピング間隔中に、グローバル障害ポリシーで指定された期間にわたり、障害の重要度が保持されます。
3. フラッピング間隔中に同じ条件が再発生した場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。フラッピング間隔中に同じ条件が再発生しない場合は、障害がクリアされます。
4. クリアされた障害は保持期間になります。この期間があるため、障害が発生した状態が改善され、さらに障害が早々に削除されていない場合でも管理者が障害に気付くことができます。保持期間のうち、グローバル障害ポリシーで指定された期間にわたり、クリアされた障害が保持されます。
5. この状況が保持間隔中に再発生する場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。この状況が再発生しない場合は、障害が削除されます。

障害収集ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニターリング モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope fault policy	モニターリング障害ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/fault-policy # set clear-action {delete retain}	クリアしたすべてのメッセージを保持するか、削除するかを指定します。 retain オプションが指定された場合、メッセージを保持する時間の長さは、 set retention-interval コマンドによって決まります。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/fault-policy # set flap-interval seconds	障害状態を変更する前にシステムが待機する間隔を指定します（秒単位）。障害が発生し、すぐに何度かクリアされると、フラッピングが発生します。これを回避するために、最後の状態変更後からフラッピング間隔が経過するまで、システムは障害の状態の変更を許可しません。フラッピング間隔中に障害が再発生した場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。それ以外の場合は、障害がクリアされます。
ステップ 5	UCS-A /monitoring/fault-policy # set retention-interval {days hours minutes seconds forever}	システムが、削除する前にクリアしたすべての障害メッセージを保持する時間間隔を指定します。システムは、クリアされた障害メッセージを永続的に保持することも、指定された日数、時間数、分数、秒数保持することもできます。
ステップ 6	UCS-A /monitoring/fault-policy # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

この例では、クリアされた障害メッセージを 30 日間保持するよう障害収集ポリシーを設定し、フラッピング間隔を 10 秒に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope fault policy
UCS-A /monitoring/fault-policy # set clear-action retain
```

```
UCS-A /monitoring/fault-policy* # set flap-interval 10
UCS-A /monitoring/fault-policy* # set retention-interval 30 0 0 0
UCS-A /monitoring/fault-policy* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/fault-policy #
```

フォールト抑制

障害抑制によって、予定されたメンテナンス時間中に SNMP トラップおよび Call Home 通知を抑制することができます。障害抑制タスクを作成し、一時的な障害が発生またはクリアされるたびに通知が送信されることを防止できます。

障害は、期限切れになるか、フォールト抑制タスクが手動で停止されるまで抑制されたままになります。フォールト抑制が終了した後に、Cisco UCS Manager がクリアされていない未処理の抑制された障害の通知を送信します。

次の方法を使用して障害抑制を設定することができます。

Fixed Time Intervals（固定時間間隔）または Schedules（スケジュール）

以下を使用して、障害を抑制するメンテナンス ウィンドウを指定することができます。

- 固定時間間隔を使用すると、開始時刻と障害抑制をアクティブにする期間を指定できます。固定時間間隔は繰り返し使用できません。
- スケジュールは、1 回限り、または繰り返される期間で使用されます。スケジュールは保存して再利用することができます。

抑制ポリシー

これらのポリシーは、抑制する要因と障害タイプを定義します。タスクに割り当てることができるポリシーは 1 つだけです。次のポリシーが Cisco UCS Manager によって定義されます。

- **default-chassis-all-maint** : シャーシとそのシャーシにインストールされたすべてのコンポーネントの障害を抑制します。コンポーネントには、すべてのサーバ、電源、ファンモジュール、IOM などが含まれます。

このポリシーは、シャーシにのみ適用されます。

- **default-chassis-phys-maint** : シャーシ、すべてのファン モジュール、シャーシに装着された電源の障害を抑制します。

このポリシーは、シャーシにのみ適用されます。

- **default-fex-all-maint** : FEX、すべての電源、ファン モジュール、FEX 内の IOM の障害を抑制します。

このポリシーは、FEX にのみ適用されます。

- **default-fex-phys-maint** : FEX、FEX 内のすべてのファンモジュールと電源の障害を抑制します。

このポリシーは、FEX にのみ適用されます。

- **default-server-maint** : サーバの障害を抑制します。

このポリシーは、シャーシ、組織およびサービス プロファイルに適用されます。



(注) シャーシに適用された場合、サーバのみが影響を受けます。



(注) データセンターで使用する高性能な高信頼性サーバ アクセス スイッチをサポートするように設計された NX-OS ネットワーク オペレーティング システムで生成される SNMP MIB-2 障害を、Cisco UCS Manager は抑制しません。これらの SNMP MIB-2 障害は、この障害抑制ポリシーに関連付けられていません。

- **default-iom-maint** : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。

このポリシーは、シャーシ、FEX および IOM にのみ適用されます。

抑制タスク

これらのタスクを使用して、スケジュール設定または固定時間間隔と抑制ポリシーをコンポーネントに関連付けることができます。



(注) 抑制タスクの作成後は、タスクの固定時間間隔またはスケジュールを Cisco UCS Manager GUI と Cisco UCS Manager CLI の両方で編集できるようになります。ただし、Cisco UCS Manager CLI で変更できるのは、固定時間間隔を使用するかスケジュールを使用するかの切り替えのみです。

シャーシに対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用したシャーシに対する障害抑制タスクの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis chassis-num	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/chassis # create fault-suppress-task name	シャーシで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy <i>policy-name</i>	<p>適用する障害抑制ポリシーを指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-chassis-all-maint : シャーシとそのシャーシにインストールされたすべてのコンポーネントの障害を抑制します。コンポーネントには、すべてのサーバ、電源、ファン モジュール、IOMなどが含まれます。 • default-chassis-phys-maint : シャーシ、すべてのファン モジュール、シャーシに装着された電源の障害を抑制します。 • default-server-maint : サーバの障害を抑制します。 <p>(注) シャーシに適用された場合、サーバのみが影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。
ステップ 4	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、single-one-time モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。

スケジュールを使用したシャーシに対する障害抑制タスクの設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # create single-one-time # set max-duration {none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds}	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシに対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、default-chassis-all-maint ポリシーをタスクに適用し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # create fault-suppress-task task2
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # set fault-suppress-policy default-chassis-all-maint
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # set date jan 1 2013 11 00 00
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # commit-buffer
```

スケジュールを使用したシャーシに対する障害抑制タスクの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis chassis-num	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/chassis # create fault-suppress-task name	シャーシで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set schedule name	使用するスケジュールを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。</p>
ステップ 4	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy policy-name	<p>適用する障害抑制ポリシーを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-chassis-all-maint : シャーシとそのシャーシにインストールされたすべてのコンポーネントの障害を抑制します。コンポーネントには、すべてのサーバ、電源、ファン モジュール、IOMなどが含まれます。 • default-chassis-phys-maint : シャーシ、すべてのファン モジュール、シャーシに装着された電源の障害を抑制します。 • default-server-maint : サーバの障害を抑制します。 <p>(注) シャーシに適用された場合、サーバのみが影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。
ステップ 5	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシに対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、weekly_maint および default-chassis-all-maint ポリシーと呼ばれるスケジュールをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A/chassis # create fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
```

```
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # set fault-suppress-policy default-chassis-all-maint
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

シャーシに対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis <i>chassis-num</i>	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/chassis # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy <i>policy-name</i>	<p>障害抑制ポリシーを変更します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-chassis-all-maint : シャーシとそのシャーシにインストールされたすべてのコンポーネントの障害を抑制します。コンポーネントには、すべてのサーバ、電源、ファン モジュール、IOMなどが含まれます。 • default-chassis-phys-maint : シャーシ、すべてのファン モジュール、シャーシに装着された電源の障害を抑制します。 • default-server-maint : サーバの障害を抑制します。 • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。 <p>(注) 障害抑制タスクに別のスケジュールを適用するには、ステップ 4 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 5 に進みます。</p>
ステップ 4	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	使用するスケジュールを適用します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注)</p> <p>一定時間間隔からスケジュールに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。</p> <p>スケジュールから一定時間間隔に変更すると、スケジュールへの参照がコミットするときにクリアされます。</p>
ステップ 5	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。
ステップ 7	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 8	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { <i>none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、 none または omit this step と入力します。
ステップ 9	UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy default-server-maint
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # scope local-schedule
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule* # scope occurrence single-one-time
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date dec 31 2013
11 00 00
UCS-A/chassis/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/chassis/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

シャーシに対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis chassis-num	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/chassis # show fault suppressed	シャーシに対する抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 3	UCS-A/chassis # scope fault-suppress-task name	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A/chassis/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、シャーシに対する抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # show fault suppressed
Fault Suppress Task:
```

Name	Status	Global Schedule	Suppress Policy Name
task1	Active	test_schedule1	Default Chassis Phys Maint

```
UCS-A/chassis #
```

次に、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Chassis Phys Maint
```

```
UCS-A/chassis/fault-suppress-task #
```

シャーシに対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis <i>chassis-num</i>	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/chassis # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 3	UCS-A/chassis # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis* # commit-buffer
```

I/O モジュールに対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用した IOM に対する障害抑制タスクの設定

default-iom-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope [chassis <i>chassis-num</i> fex <i>fex-num</i>]	指定したシャーシ または FEX でシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis fex # scope iom <i>iom-id</i>	選択した I/O モジュールでシャーシ I/O モジュール モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/chassis fex/iom # create fault-suppress-task <i>name</i>	IOM で障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後

	コマンドまたはアクション	目的
		に、この名前を変更することはできません。
ステップ 4	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、single-one-time モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 7	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { <i>none</i> <i>num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ上の IOM に対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # create fault-suppress-task task2
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date jan 1 2013 11 00 00
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、FEX 上の IOM に対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # scope iom a
UCS-A/fex/iom # create fault-suppress-task task2
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date jan 1 2013 11 00 00
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

スケジュールを使用した IOM に対する障害抑制タスクの設定

default-iom-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope [chassis chassis-num fex fex-num]	指定したシャーシ または FEX でシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis fex # scope iom iom-id	選択した I/O モジュールでシャーシ I/O モジュール モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/chassis fex/iom # create fault-suppress-task name	IOM で障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 4	UCS-A/chassis fex/iom/fault-suppress-task # set schedule name	使用するスケジュールを指定します。 (注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、 スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。
ステップ 5	UCS-A/chassis fex/iom/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ上の IOM に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、weekly_maint と呼ばれるスケジューラをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # create fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
```

```
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

次の例では、FEX 上の IOM に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、weekly_maint と呼ばれるスケジューラをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # scope iom a
UCS-A/fex/iom # create fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

IOM に対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope [chassis chassis-num fex fex-num]	指定したシャーシまたは FEX でシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis fex # scope iom iom-id	選択した I/O モジュールでシャーシ I/O モジュールモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/chassis fex/iom # scope fault-suppress-task name	障害抑制タスクモードを開始します。 (注) 障害抑制タスクに別のスケジューラを適用するには、ステップ 4 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 5 に進みます。
ステップ 4	UCS-A/chassis fex/iom/fault-suppress-task # set schedule name	別のスケジューラを適用します。 (注) 一定時間間隔からスケジューラに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。 スケジューラから一定時間間隔に変更すると、スケジューラへの参照がコミットするときにクリアされます。
ステップ 5	UCS-A/chassis fex/iom/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジューラモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。
ステップ 7	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date month day-of-month year hour minute seconds	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 8	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration {none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds}	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 9	UCS-A/chassis/fex/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ上の IOM に対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task # scope local-schedule
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date dec 31
2013 11 00 00
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、FEX 上の IOM に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 3
UCS-A/fex # scope iom a
UCS-A/fex/iom # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

IOM に対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope [chassis chassis-num fex fex-num]	指定したシャーシまたは FEX でシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis fex # scope iom iom-id	選択した I/O モジュールでシャーシ I/O モジュールモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A/chassis fex/iom # show fault suppressed	IOM の抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 4	UCS-A/chassis fex/iom # scope fault-suppress-task name	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/chassis fex/iom/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、シャーシ上の IOM の抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # show fault suppressed
Fault Suppress Task:
```

Name	Status	Global Schedule	Suppress Policy Name
task1	Active	test_schedule1	Default Iom Maint

```
UCS-A/chassis/iom #
```

次の例では、シャーシ上の IOM の task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Iom Maint
```

```
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task #
```

次の例では、FEX 上の IOM の task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 3
UCS-A/fex # scope iom a
UCS-A/fex/iom # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/iom/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Iom Maint
```



```
UCS-A/chassis/iom/fault-suppress-task #
```

IOM に対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope [chassis <i>chassis-num</i> fex <i>fex-num</i>]	指定したシャーシ または FEX でシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis fex # scope iom <i>iom-id</i>	選択した I/O モジュールでシャーシ I/O モジュール モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/chassis fex/iom # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 4	UCS-A/chassis fex/iom # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ上の IOM に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A/chassis # scope iom a
UCS-A/chassis/iom # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/chassis/iom* # commit-buffer
```

次の例では、FEX 上の IOM に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 3
UCS-A/fex # scope iom a
UCS-A/fex/iom # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/iom* # commit-buffer
```

FEX に対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用した FEX に対する障害抑制タスクの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fex <i>fex-num</i>	指定された FEX の fex モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/fex # create fault-suppress-task <i>name</i>	fex で障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/fex/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy <i>policy-name</i>	適用する障害抑制ポリシーを指定します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • default-fex-all-maint : FEX、すべての電源、ファン モジュール、FEX 内の IOM の障害を抑制します。 • default-fex-phys-maint : FEX、FEX 内のすべてのファン モジュールと電源の障害を抑制します。 • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。
ステップ 4	UCS-A/fex/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、single-one-time モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration {none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds}	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、FEX に対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、default-fex-all-maint ポリシーをタスクに適用し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # create fault-suppress-task task2
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # set fault-suppress-policy default-fex-all-maint
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date jan 1 2013 11
00 00
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

スケジュールを使用した FEX に対する障害抑制タスクの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fex <i>fex-num</i>	指定された FEX の fex モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/fex # create fault-suppress-task <i>name</i>	fex で障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/fex/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	使用するスケジュールを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、 スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。
ステップ 4	UCS-A/fex/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy <i>policy-name</i>	適用する障害抑制ポリシーを指定します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • default-fex-all-maint : FEX、すべての電源、ファン モジュール、FEX 内の IOM の障害を抑制します。 • default-fex-phys-maint : FEX、FEX 内のすべてのファン モジュールと電源の障害を抑制します。 • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。
ステップ 5	UCS-A/fex/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、FEX に対する task1 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、weekly_maint および default-fex-all-maint ポリシーと呼ばれるスケジュールをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # create fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # set fault-suppress-policy default-fex-all-maint
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

FEX に対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fex <i>fex-num</i>	指定された FEX の fex モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A/fex # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/fex/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy <i>policy-name</i>	<p>障害抑制ポリシーを変更します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default-fex-all-maint : FEX、すべての電源、ファン モジュール、FEX 内の IOM の障害を抑制します。 • default-fex-phys-maint : FEX、FEX 内のすべてのファン モジュールと電源の障害を抑制します。 • default-iom-maint : シャーシまたは FEX 内の IOM の障害を抑制します。 <p>(注) 障害抑制タスクに別のスケジュールを適用するには、ステップ 4 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 5 に進みます。</p>
ステップ 4	UCS-A/fex/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	<p>別のスケジュールを適用します。</p> <p>(注) 一定時間間隔からスケジュールに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。</p> <p>スケジュールから一定時間間隔に変更すると、スケジュールへの参照がコミットするときにクリアされます。</p>
ステップ 5	UCS-A/fex/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。
ステップ 7	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。

FEX に対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration {none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds}	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 9	UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/fex/fault-suppress-task # set fault-suppress-policy default-iom-maint
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # scope local-schedule
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule* # scope occurrence single-one-time
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date dec 31 2013 11
00 00
UCS-A/fex/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/fex/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

FEX に対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fex fex-num	指定された FEX の fex モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/fex # show fault suppressed	FEX に対する抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 3	UCS-A/fex # scope fault-suppress-task name	障害抑制タスク モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A/fex/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、FEX に対する抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # show fault suppressed
Fault Suppress Task:

Name                Status                Global Schedule Suppress Policy Name
-----
task1               Active                test_schedule1    Default FEX Phys Maint

UCS-A/fex #
```

次に、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/fex/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default FEX Phys Maint

UCS-A/fex/fault-suppress-task #
```

FEX に対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fex <i>fex-num</i>	指定された FEX の fex モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/fex # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 3	UCS-A/fex # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope fex 1
UCS-A/fex # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/fex* # commit-buffer
```

サーバに対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用したサーバに対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num</i> <i>dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/server # create fault-suppress-task <i>name</i>	サーバで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/server/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、 single-one-time モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 6	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { none <i>num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、 none または omit this step と入力します。
ステップ 7	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、サーバに対する task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # create fault-suppress-task task2
UCS-A/server/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date jan 1 2013
11 00 00
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

スケジュールを使用したサーバに対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/server # create fault-suppress-task <i>name</i>	サーバで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/server/fault-suppress-task # set <i>schedule name</i>	使用するスケジュールを指定します。 (注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、 スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。
ステップ 4	UCS-A/server/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、サーバに対する **task1** と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、**weekly_maint** と呼ばれるスケジューラをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # create fault-suppress-task task1
UCS-A/server/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
UCS-A/server/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

サーバに対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num</i> <i>dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/server # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。 (注) 障害抑制タスクに別のスケジューラを適用するには、ステップ 3 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 4 に進みます。
ステップ 3	UCS-A/server/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	別のスケジューラを適用します。 (注) 一定時間間隔からスケジューラに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。 スケジューラから一定時間間隔に変更すると、スケジューラへの参照がコミットするときにクリアされます。
ステップ 4	UCS-A/server/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジューラ モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date month day-of-month year hour minute seconds	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 7	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration {none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds}	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/server/fault-suppress-task # scope local-schedule
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date dec 31 2013
11 00 00
UCS-A/server/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/server/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/server/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

スケジュールの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # create scheduler sched-name	スケジューラを作成し、スケジューラモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /system/scheduler# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、`maintenancesched` というスケジューラを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create scheduler maintenancesched
UCS-A /system/scheduler* # commit-buffer
UCS-A /system/scheduler #
```

次のタスク

スケジュールのワнтаイム オカレンスまたは繰り返しオカレンスを作成します。

サーバに対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num</i> <i>dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	5 UCS-A/server # show fault suppressed	サーバに対する抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 3	UCS-A/server # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A/server/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、サーバに対する抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # show fault suppressed
Fault Suppress Task:

Name                Status                Global Schedule Suppress Policy Name
-----
task1               Active                test_schedule1   Default Server Maint

UCS-A/server #
```

次に、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/server/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Server Maint

UCS-A/server/fault-suppress-task #
```

サーバに対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/server # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 3	5 UCS-A/server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A/server # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/server* # commit-buffer
```

サービス プロファイルに対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用したサービス プロファイルに対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # create fault-suppress-task <i>name</i>	シャースィで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、single-one-time モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 7	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { none <i>num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、アカウントिंग サービス プロファイル下で task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # create fault-suppress-task task2
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence
single-one-time
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date
jan 1 2013 11 00 00
```

```
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* #
commit-buffer
```

スケジュールを使用したサービス プロファイルに対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # create fault-suppress-task <i>name</i>	<p>シャーシで障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。</p> <p>この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。</p>
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	<p>使用するスケジュールを指定します。</p> <p>(注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。</p>
ステップ 5	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、アカウントिंग サービス プロファイル下で **task1** と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、**weekly_maint** と呼ばれるスケジューラをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # create fault-suppress-task task1
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

サービス プロファイルに対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/org/service-profile # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。 (注) 障害抑制タスクに別のスケジューラを適用するには、ステップ 4 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 5 に進みます。
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	別のスケジューラを適用します。 (注) 一定時間間隔からスケジューラに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。 スケジューラから一定時間間隔に変更すると、スケジューラへの参照がコミットするときにクリアされます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。
ステップ 7	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 8	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { <i>none num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、 none または omit this step と入力します。
ステップ 9	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # scope local-schedule
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence
single-one-time
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date
dec 31 2013 11 00 00
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* #
commit-buffer
```

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

サービス プロファイルに対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/org/service-profile # show fault suppressed	サーバに対する抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、サービス プロファイルに対する抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # show fault suppressed
UCS-A/org/service-profile #
Fault Suppress Task:

Name                Status                Global Schedule Suppress Policy Name
-----
task1               Active                test_schedule1    Default Server Maint

UCS-A/org/service-profile #
```

次に、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Server Maint
```

```
UCS-A/org/service-profile/fault-suppress-task #
```

サービス プロファイルに対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/org/service-profile # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope service-profile accounting
UCS-A/org/service-profile # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/org/service-profile* # commit-buffer
```

組織に対する障害抑制の設定

固定時間間隔を使用した組織に対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A/org # create fault-suppress-task <i>name</i>	組織の障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および.（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/org/fault-suppress-task # create local-schedule	ローカル スケジュールを作成し、ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule # create occurrence single-one-time	ワンタイム オカレンスを作成し、single-one-time モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 6	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { none <i>num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、none または omit this step と入力します。
ステップ 7	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ルート組織下で task2 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、開始日を 2013 年 1 月 1 日 11:00 に設定し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # create fault-suppress-task task2
UCS-A/org/fault-suppress-task* # create local-schedule
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule* # create occurrence single-one-time
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # set date jan 1 2013 11
00 00
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

スケジュールを使用した組織に対する障害抑制タスクの設定

default-server-maint 抑制ポリシーがデフォルトで選択されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A/org # create fault-suppress-task <i>name</i>	組織の障害抑制タスクを作成し、障害抑制タスク モードを開始します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A/org/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	使用するスケジュールを指定します。 (注) すでにあるスケジュールを障害抑制タスクで使用する必要があります。スケジュール作成の詳細については、 スケジュールの作成 (27 ページ) を参照してください。
ステップ 4	UCS-A/org/fault-suppress-task # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ルート組織下で task1 と呼ばれる障害抑制タスクを作成し、weekly_maint と呼ばれるスケジューラをタスクに適用し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # create fault-suppress-task task1
UCS-A/org/fault-suppress-task* # set schedule weekly_maint
UCS-A/org/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

組織に対する障害抑制タスクの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A/org # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。 (注) 障害抑制タスクに別のスケジュールを適用するには、ステップ 3 に進みます。障害抑制タスクの一定時間間隔を変更するには、ステップ 4 に進みます。
ステップ 3	UCS-A/org/fault-suppress-task # set schedule <i>name</i>	別のスケジュールを適用します。 (注) 一定時間間隔からスケジュールに変更すると、一定時間間隔はコミットするときに消去されます。 スケジュールから一定時間間隔に変更すると、スケジュールへの参照がコミットするときにクリアされます。
ステップ 4	UCS-A/org/fault-suppress-task # scope local-schedule	ローカル スケジュール モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time	single-one-time モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date <i>month day-of-month year hour minute seconds</i>	このオカレンスを実行する日時を指定します。
ステップ 7	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set max-duration { none <i>num-of-days num-of-hours num-of-minutes num-of-seconds</i> }	このタスクを実行できる時間の最大長を指定します。タスクを手動で停止するまで実行するには、 none または omit this step と入力します。
ステップ 8	UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task2 と呼ばれる障害抑制タスクの日付と障害抑制ポリシーを変更する方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # scope fault-suppress-task task2
UCS-A/org/fault-suppress-task* # scope local-schedule
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule # scope occurrence single-one-time
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time # set date dec 31 2013 11
00 00
UCS-A/org/fault-suppress-task/local-schedule/single-one-time* # commit-buffer
```

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクに別のスケジュールを適用する方法を示します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A/org # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/org/fault-suppress-task # set schedule monthly-maint
UCS-A/org/fault-suppress-task* # commit-buffer
```

組織に対する抑制された障害と障害抑制タスクの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A/org # show fault suppressed	組織に対する抑制された障害を表示します。 (注) 選択したコンポーネント内の障害のみが表示されます。
ステップ 3	UCS-A/org # scope fault-suppress-task <i>name</i>	障害抑制タスク モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A/org/fault-suppress-task # show detail expand	タスクのスケジュールまたは固定時間間隔を表示します。

例

次に、組織に対する抑制された障害を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope org Finance
UCS-A/org # show fault suppressed
UCS-A/org #
```

Fault Suppress Task:

Name	Status	Global Schedule	Suppress Policy Name
task1	Active	test_schedule1	Default Server Maint

UCS-A/org #

次に、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope org Finance
UCS-A/org # scope fault-suppress-task task1
UCS-A/org/fault-suppress-task # show detail expand
Fault Suppress Task:
  Name: task1
  Status: Active
  Global Schedule: test_schedule1
  Suppress Policy Name: Default Server Maint
UCS-A/org/fault-suppress-task #
```

組織に対する障害抑制タスクの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A/org # delete fault-suppress-task <i>name</i>	指定された障害抑制タスクを削除します。
ステップ 3	UCS-A/org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、task1 と呼ばれる障害抑制タスクを削除する方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A/org # delete fault-suppress-task task1
UCS-A/org* # commit-buffer
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。